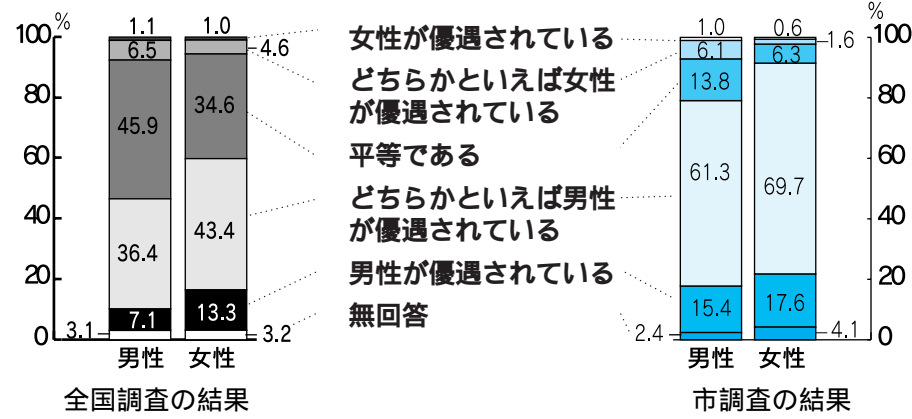


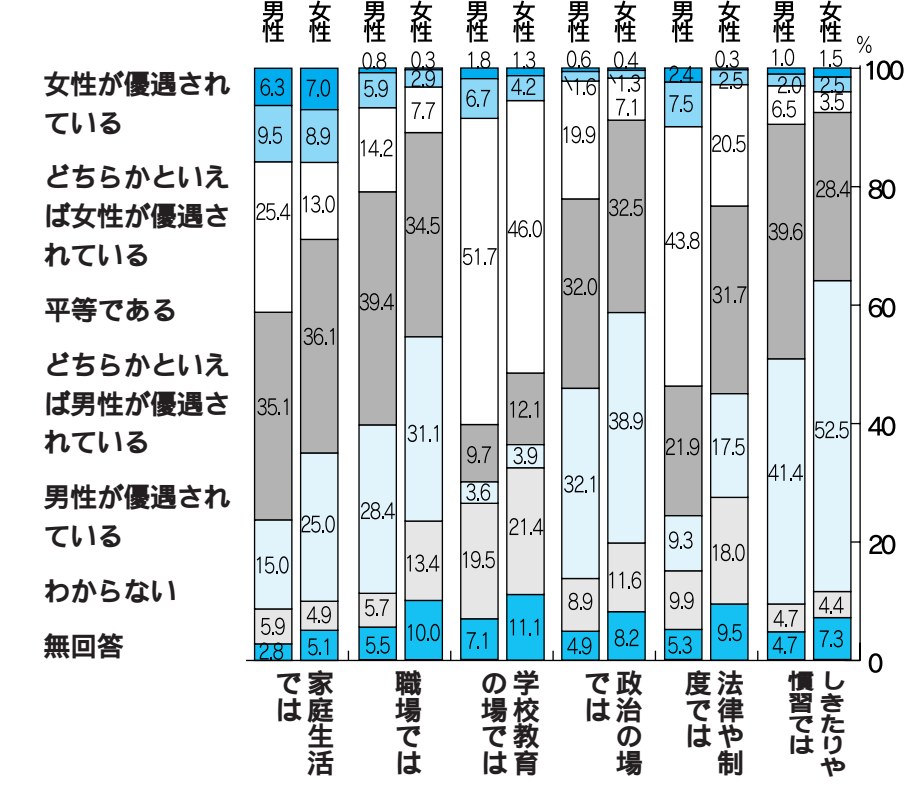
# 男女平等の意識について

## 1. 社会全体でみた場合、男女の地位が平等になっていると思いますか。



男女の地位の平等意識を全国調査と比較してみると、市調査では、性別を問わず男性優位の傾向にあるという意識の強いことがわかります(1)。分野別では、学校教育以外の各分野で男女の意識に大きな格差があり、女性が不平等感を抱いていることがわかります(2)。

## 2. 次にあげる分野については平等になっていると思いますか。

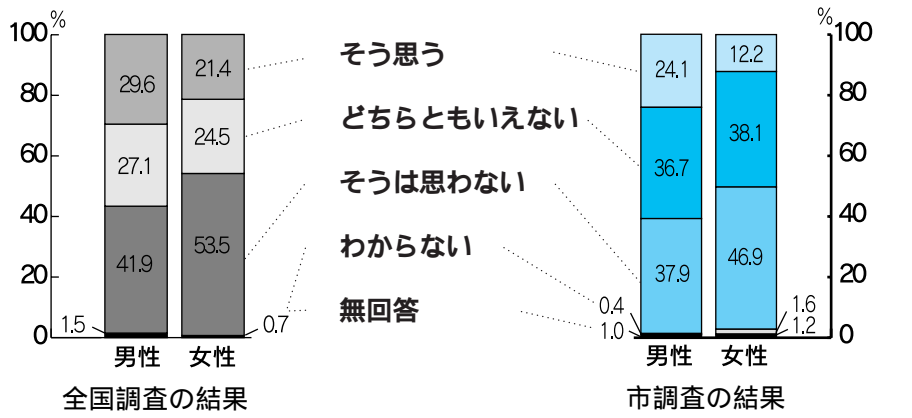


性別による役割分担意識は、男性の方が肯定的なようです。全国調査と比べてみると、否定的な回答が少ないことが特徴です(3)。子どものしつけについては、ある程度は男の子・女の子らしくしつけた方がよいとの回答が、男女とも最も多くありました(4)。

## 4. 子どものしつけについてどう思いますか。

男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけた方がよい。同じがよいが、ある程度は男の子・女の子らしくしつけた方がよい。男の子も女の子も同じようにしつけた方がよい。その他。わからない。無回答。

## 3. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。



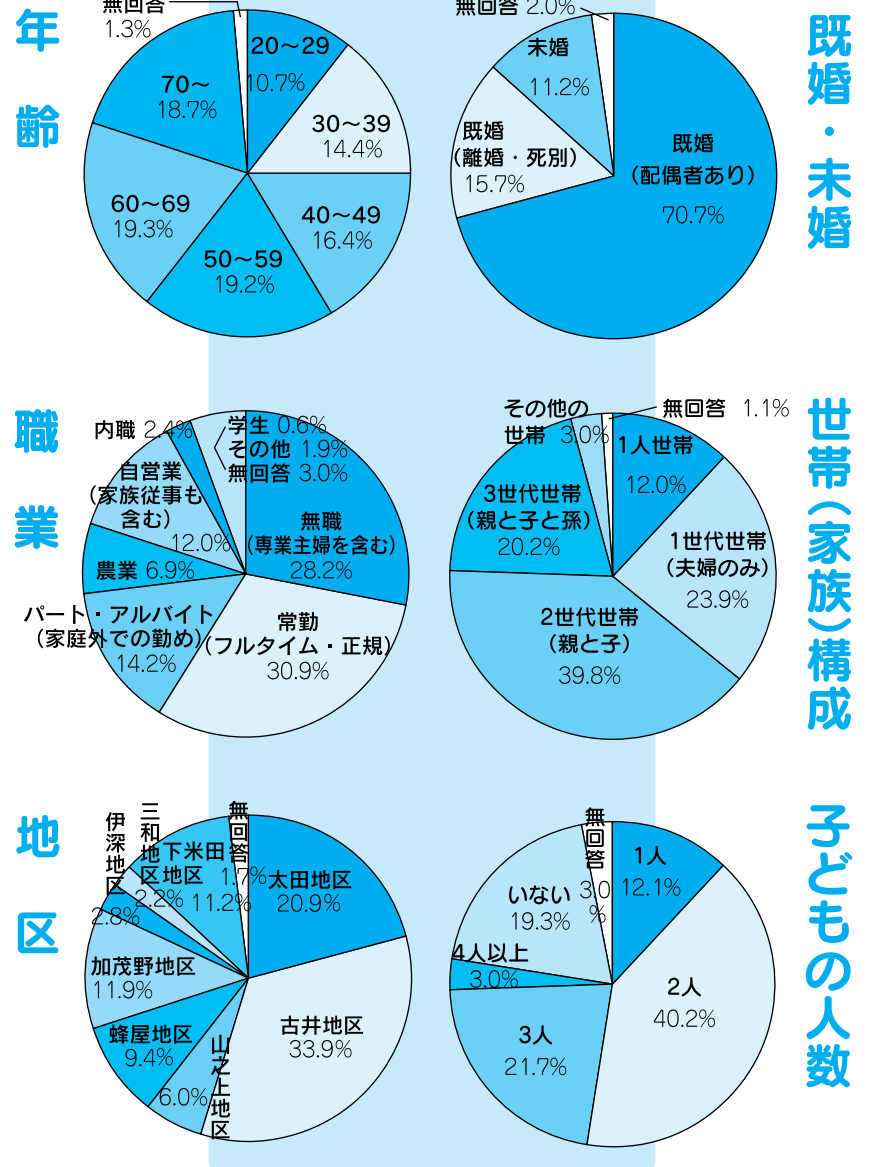
市は平成12年8月から9月にかけて「男女共同参画計画策定のための市民意識調査」を行いました。これは、「男女共同参画基本計画(仮)」に市民ニーズと地域特性を反映させることを目的に、市内在住の20歳以上の1,211人から無作為抽出で選んだ3,000人を対象として実施。そのうち、1,211人から回答がありました。ご協力ありがとうございました。

このたび、調査結果の集計が終わり、主なものをご紹介します。グラフはすべて男女別で作成。参考に、全国調査のグラフが添えてあるものもあります。集計からは、美濃加茂市の特徴や、男性市民と女性市民の意識の差などをみることができて、大変興味深いものとなりました。

なお、意識調査の詳しい内容については、市役所本庁舎1階「情報コーナー」、中央図書館、東図書館で公開しています。ぜひご覧ください。

## 回答者の特性

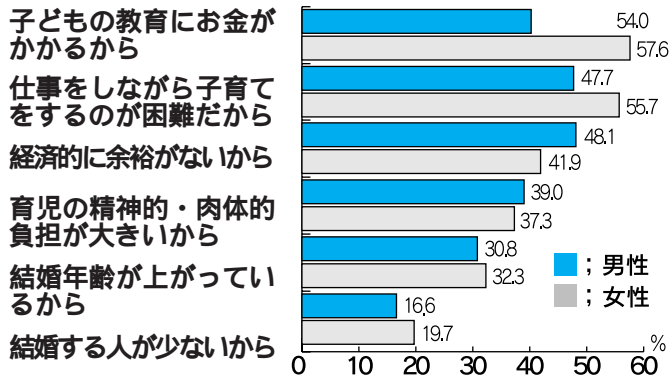
男性... 419 % 女性... 568 %



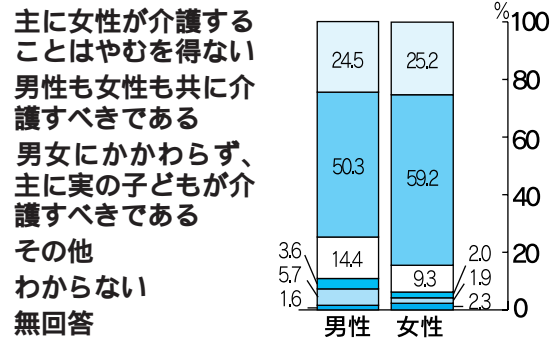
# 市民データの意識が語る特性。

# 健康と福祉について

## 1. 日本において出生率が低下していますが、なぜだと思いますか。(主な意見のみ)



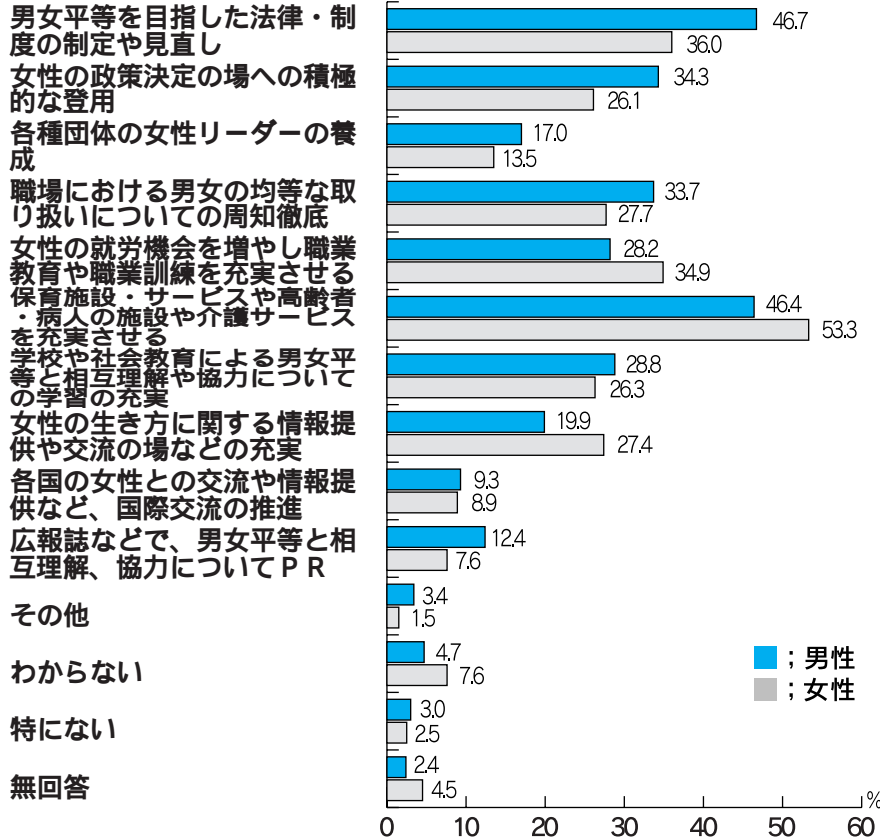
## 2. 一般には、介護している人の多くが女性といわれていますが、このことについてあなたはどのように思いますか。



出生率の低下の原因については、経済的な理由や育児による負担、婚期の高齢化という回答が多くありました。介護については、「共に介護すべき」との回答が男女共に最多。他の資料からは「女性が介護すべき」という回答が、年代が高くなるにつれて多くなっていることがわかりました。

男女共同参画社会推進における行政の役割については、女性はサービスや施設の充実、男性は法制整備と回答した人が最も多くありました。その他では、男性に周知や女性登用という回答が多いのに対し、女性には情報提供や就労機会拡大という回答が多いことが特徴です。

## 3. 男女共同参画社会を推進していくために、今後行政は、どんなことに力を入れていくべきだと思いますか。

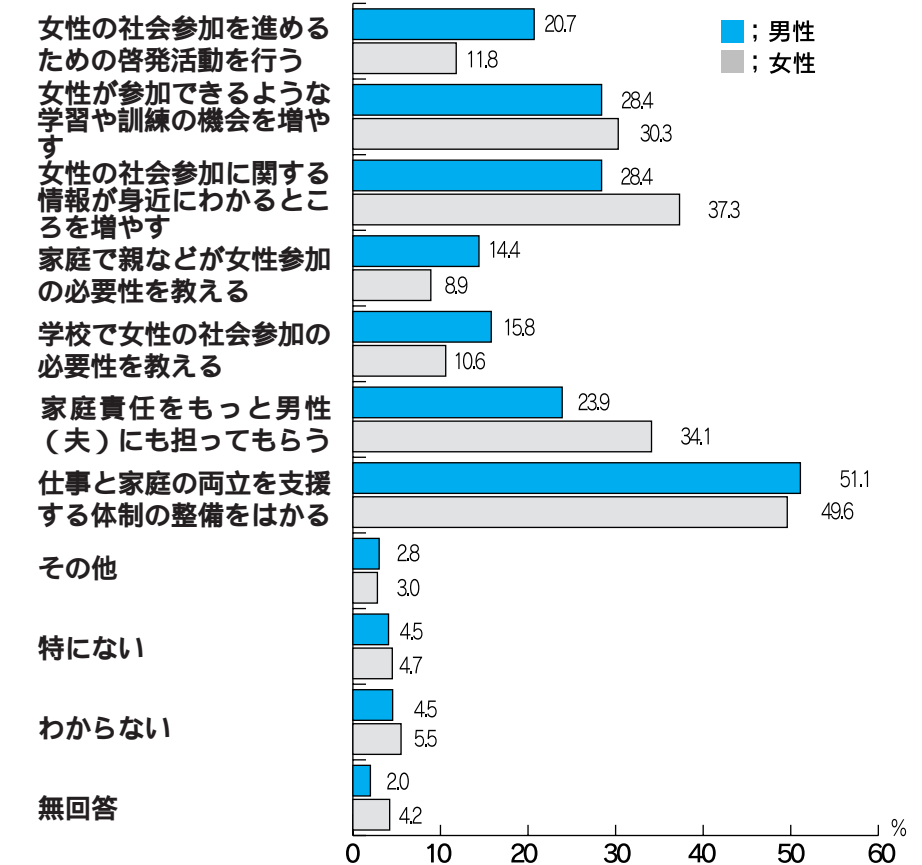


「これはどうなの？」意識調査「自由意見」から  
教育現場は本当に男女平等ですか？  
家庭科や工作の授業はすでに男女一緒に行われています。男女混合の名簿を作成している小中学校は、市内12校中5校（平成12年8月調査）。男女平等の理念をもとに、今後さらなるジェンダーフリー化をすすめます。  
身体づくり・精神的な違いがあるので、全てが男女平等にはならないのでは？  
男性と女性に、身体づくり・精神的な違いである。生物学的・遺伝学的な生まれつき「性差」は当然あります。それを認識した上で、『歴史的・文化的・社会的な性差』をなくそうというのが男女共同参画の考え方です。  
「区別」と「差別」の違いは？  
種類や特徴によって分けることが「区別」。種類や特徴によって分け、両者に優劣の関係が存在し、利益、権力、役割などの配分に不平等があることが「差別」。差別とならない区別と、差別につながる区別があります。  
性に基づく区別で、差別とならないもの：「男女のト

イレを別にする」「身体検査を男女別に行う」など、性に基づく区別で、差別となるもの：「男は仕事・女は家庭」「男女に異なる教育をする」など  
男女共同参画を行政自身が行って見せるべきでは？  
市では、男女共同参画基本計画（仮）の策定をすすめるが、職員の意識向上のため、研修を行います。そして、市民と共に、男女共同参画の視点に沿った行政が行えるようにします。  
男女平等と言わなくてもいい社会になってほしい。  
そうですね。「男女平等・男女共同参画社会」が伝説になったときはじめて、男性、女性、そしてどちらにも入らない人、外国人、高齢者、子どもなど、あらゆる人が「一人の人間として」認められるのかもしれないですね。しかし、社会は予想をはるかに上回る勢いで変化しているのです。政策や人々の意識の自然な変化では追いつくことができなくなっています。ですから今は、21世紀社会の常識でもあるジェンダーフリー、男女共同参画を実現するため、行政と市民が積極的に取り組むことが必要とされています。

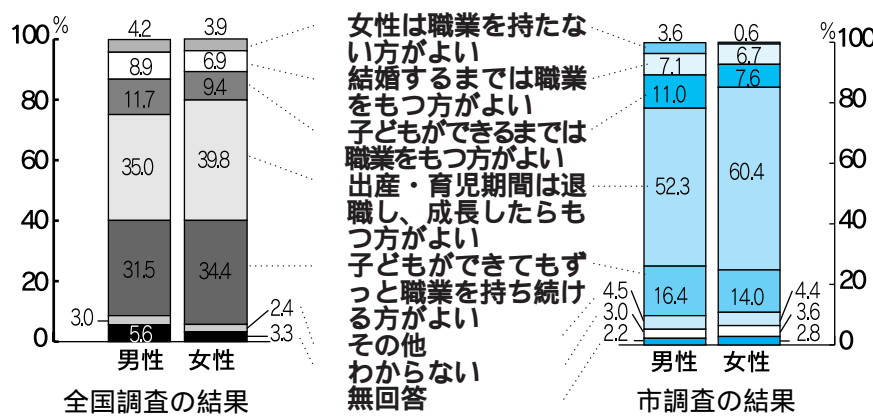
# 女性の社会参加・就労について

## 1. 女性の社会参加を進めるためにはどのようなことが必要だと思いますか。

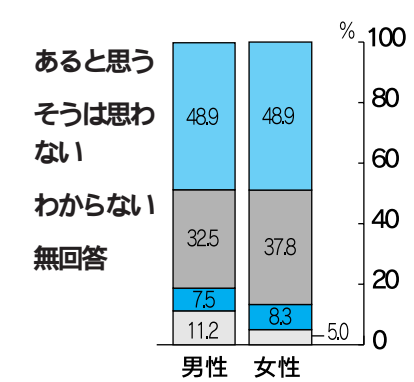


女性の社会参加については、家庭との両立を支援する体制の整備が必要という回答が多くありました。また、啓発活動が必要という回答は、女性よりも男性のほうが多いのに対し、身近な情報や家庭責任の分担が必要という回答は、男性よりも女性のほうが上回っています（1）。  
女性の就労については、男女とも肯定的な回答が多くありました（2）。全国調査と比較してみると、育児との両立よりも、どちらかを選択するという考え方が多いのが特徴です。  
職場の男女格差については、男女とも半数近くが感じているという結果が出ています。（3）

## 2. 女性が職業をもつことについてどう思いますか。



## 3. 職場では、男女の格差があると思いますか。



「これはどうなの？」意識調査「自由意見」から  
教育現場は本当に男女平等ですか？  
家庭科や工作の授業はすでに男女一緒に行われています。男女混合の名簿を作成している小中学校は、市内12校中5校（平成12年8月調査）。男女平等の理念をもとに、今後さらなるジェンダーフリー化をすすめます。  
身体づくり・精神的な違いがあるので、全てが男女平等にはならないのでは？  
男性と女性に、身体づくり・精神的な違いである。生物学的・遺伝学的な生まれつき「性差」は当然あります。それを認識した上で、『歴史的・文化的・社会的な性差』をなくそうというのが男女共同参画の考え方です。  
「区別」と「差別」の違いは？  
種類や特徴によって分けることが「区別」。種類や特徴によって分け、両者に優劣の関係が存在し、利益、権力、役割などの配分に不平等があることが「差別」。差別とならない区別と、差別につながる区別があります。  
性に基づく区別で、差別とならないもの：「男女のト